第８学年　国語科学習指導案

令和５年２月３日（金）４校時　８年３組
５校時　８年１組
島根大学教育学部附属義務教育学校　　教諭　佐藤　響

１　単元（題材）名

付属語の働きに着目して漫画のワンシーンに使われる言葉を説明しよう。

文法３　付属語（光村図書「国語２」）より

２　単元（題材）目標

（１）単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。

（知識及び技能）

（２）言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

（学びに向かう力，人間性等）

３　基盤

（１）教材について

国語の学習内容の中でも「文法」と聞くと、生徒は途端に苦手意識を示すことが多いと感じる。また、指導者にとっても知識の伝達に偏った授業構成に悩みがちである。光村図書の中学２年生用教科書では、用言の活用を学習したのちに付属語の学習を行うことになっている。この構成によって、用言の活用についての学習を踏まえたうえで、付属語が日常生活の中の様々な表現に深く結びついていることを感じやすいのではないだろうか。その一方で、「用言の活用」と言われると、活用形や活用の種類を覚えることが中心となってしまいがちである。いわゆる「型にはめて覚える」ことも時には必要だが、文法の学習は覚えるものではなく、言葉を使って豊かに表現するためのものであると生徒が自然に考えるよう促したい。そのため、今回は教科書の単元構成を組み替え、用言の活用を学ぶ前に本教材を設定した。助詞や助動詞の学習の目的は、一つひとつの用法を覚えることではない。助詞では「限定」「方向」「理由」「強調」、助動詞では「受け身」「使役」「断定」などと説明するが、大切なことは生徒自身がそれぞれの意味を自らの語感に照らし合わせてしっかり考えることである。普段私たちが使っている身の回りにあふれた言葉について振り返り、言葉の意味を改めて考えるきっかけとしたい。

（２）生徒について

本校は各学年４学級あり、１学級あたり３０名程度で構成される。第８学年（中学２年相当）の生徒全体としては、日々の国語の学習に対して前向きな生徒が多い。国語の学習において協同で取り組む際には、４～５人のグループから話し合いをはじめるようにしている（「生活班」「班」などと呼んでいる）。これによってお互いに意見をしっかりと伝えること、役割分担を明確にして自分のグループの活動に積極的に参加することを意識できるようにしてきた。また、相手の発表や発言に対して「反応」をするこ

とで発表に対する抵抗感が減ることを繰り返し伝えてきた。授業中には、複数名の生徒が疑問に感じたことや興味をもったことを言葉にしてつぶやくことがある。その言葉から授業が展開していき、自然と活発に意見交換が行われる場面が多くあるため、この雰囲気も大切にした授業展開をしたいと日々考えている。

本校では総合的な学習として「未来創造科」という教科を設定し、地域の「住みたいまち」をテーマに学習を進めている。毎年、生徒は自らの考える「住みたいまち」について体験的学習を通して得た視点をふまえながら、下級生にプレゼンテーションを行っている。このような場面では、多数の人の前で発表するうえで、聞き手をまきこみながら自分の意見を伝えようとする姿が多くみられる。国語科では、第７学年（中学１年相当）の時から一貫して、未来創造科の学習内容と教科横断的な取組を行っている。これまでに情報整理の単元を踏まえた調べ学習のテーマ分析や、発表の際の伝え方などを行ってきた。

今回の授業では、中学生にとって身近な存在である「漫画」に使われている言葉を活動の入口とすることによって、活発に意見交換をする姿を期待したい。

以上のような生徒の姿を踏まえ、生徒一人ひとりが自然と学習課題に向かえるような授業展開を目指し、グループごとに課題を選択し、その課題に対して調べたことを学級全体へ伝達する形態※１をとる。生徒にとっては、「解説」する側は「授業者」に近い感覚となり、聞き手の反応を求めながら自分たちの考えたことを伝えていくことになる。また、グループ内で解説の役割分担を行うことによって、全体の前で、自分ひとりで意見を伝えるのが苦手な生徒にとっても抵抗感を軽減できるのではないかと考えている。

※１以降、この形態を「解説」と呼ぶこととする

（３）指導にあたって

中学生にとって「身近な漫画」と一言で言っても、そのタイトルを挙げればきりがないだろう。また、それぞれの生徒の好みもあり、ある特定の漫画を取りあげて「身近な漫画」というのは難しいのかもしれない。本校の多目的ライブラリー（図書室の名称）の一角には、漫画を自由に閲覧できるコーナーがある。今回は、漫画コーナーに蔵書されている作品の中から「ONE PIECE」※２と「ちはやふる」※３のそれぞれ第１巻を取りあげることにした。使用されている言葉としては、「ONE PIECE」の方が、くだけた物言いのものが多いと感じる。一方で「ちはやふる」は、丁寧な言葉遣いも多くあるが、方言で話す登場人物が描かれているのも特徴的である。この二つの作品の描写を手がかりに、身の回りの助動詞に着目した課題を提示し、言葉の用法の違いについて考えるきっかけとなるようにしたいと考える。

この学習活動を通して、生徒自らが題材となる登場人物のセリフや描写について、他者へ伝える言葉を選択しながら丁寧な説明を意識することで、言葉を分析しながら捉える感覚を身につけさせたい。また、聞き手に伝える場面では、「未来創造科」でのプレゼンテーションの際に意識した、聞き手を意識した伝え方を意識することで、自分の意見を伝えようとする姿がみられる展開にしたいと考えている。

※２集英社ジャンプコミックス　1997年初版

※３講談社COMICS BL　2008年初版

４　単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
○助詞や助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。	○今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。

5　展開と評価計画

時	主な学習活動	評価規準
1	◎身の回りの言葉に触れ、使用されている言葉や言い回しについて考える。 身の回りにある言葉や言い回しに付属語がどう関わっているだろうか。 ○品詞や付属語とは何か復習し、学習内容を知る。 ・１０品詞の名前が言えるか ・付属語はどれか ・助詞と助動詞の共通点は何か ・助詞と助動詞のちがいは何か ・付属語は本当に必要か ○未来創造科で学習した、相手にわかりやすく伝えるための手段（五つのまきこみ方）を確認する。 ○「ONE PIECE」と「ちはやふる」の第１巻を読む。	●既習事項である付属語についての内容を生かして、身の回りの言葉について考えようとしている。　（たちどまり）[主]
2 本 時 ①	◎漫画の中に使用されている言葉を取りあげ、言葉のもつイメージの違いを考える。 漫画の言葉を置き換えると、どんなふうにイメージがかわるだろうか。 ○グループで解説する題材の二つのパターン例を確認する。 **パターンＡ** 助動詞なし…動詞のあとに助動詞をつけ加える **パターンＢ** 助動詞付き…助動詞を他のものに置き換える ○「ONE PIECE」と「ちはやふる」の中で設定された２０の言葉のうち、くじで決まった候補から、グループで題材を一つに決定する。 ○助動詞をいくつか当てはめ、置き換えた際の「不具合さ」について考える。	●今までの学習を生かして、積極的に助動詞の働きの違いについて漫画の描写から説明を考えようとしている。 （たちどまり）[主]
3 本 時 ②	◎漫画の中に使用されている言葉を用いて、言葉のもつイメージの違いを説明する。 言葉によるイメージの違いを、わかりやすく伝えるにはどうすればよいか。 ○返却されたグループでの話し合いメモをもとに、グループで役割分担の確認と解説の最終確認を行う。 ○グループごとに、取りあげた漫画のコマの言葉を使いながら、言葉のもつイメージの違いについて解説を行う。 ○聞き手は、解説を行うグループの問いかけなどに反応しながら、説明を聞く。	●文や文章で使われている助動詞の意味・用法を判別し、わかりやすく説明している。 （解説）[知・技] ●今までの学習を生かして、積極的に助動詞の働きについて理解しようとしている。 （たちどまり）[主]

4	◎助詞や助動詞の意味・用法を整理する。 助詞や助動詞の働きは、身の回りの言葉にどのように影響しているだろうか。 ○前時に解説を終えていないグループは、言葉のもつイメージの違いについて解説を行う。 ○全てのグループの解説終了後に、個人で言葉のもつイメージの違いについて感じたことをノートにまとめる。 ○学習内容を振り返り、身の回りの言葉について付属語の働きが大きく関わっていることを確認する。 ○助詞や助動詞の意味・用法を整理し、確認問題を解く。 ○付属語の学習を振り返り、学んだことを自分の言葉でノートにまとめる。	●助詞や助動詞の働きについて理解したことを今後の生活に生かそうとしている。 （たちどまり）［主］

６　本時の学習

●２／４時間目　（４時間目　８年３組）

（１）ねらい

漫画の中に使用されている言葉を取りあげ、言葉のもつイメージの違いを考える。

（学びに向かう力，人間性等）

（２）展開

流れ	学習活動と予想される生徒の反応	めざす姿と取組を支える手立て
導入 １０分	１．前時の内容を思い出し、１０品詞の内容を復習する。	・１０品詞の名称にとどまらず、働きや具体的な単語についても確認するよう伝える。
	２．本時の課題を知る。 漫画の言葉を置き換えると、どんなふうにイメージがかわるだろうか。	
展開 ３５分	３．グループで解説するための題材の二つのパターン例（**パターンＡ**＝助動詞なし、**パターンＢ**＝助動詞付き）を確認する。 ［予想される生徒の反応］ ・「おれはなりたい」だと、意志が弱い感じがするな。 ・「おれはなります」だと、意志は伝わるけれど、丁寧な表現はふさわしくないな。 ・「かるたの目らしい」では、札をとっているイラストに合わないな。	・「ONE PIECE」と「ちはやふる」の中からそれぞれ一つずつ例を示し、学習課題を提示する。その際に、生徒の反応を確かめながら「感覚的なおかしさ」について言葉での説明を促す。 ・「なんかおかしい」や「しっくりこない」という感覚の原因が助動詞の部分にあることに気づかせる。
	４．「ONE PIECE」と「ちはやふる」の中で設定された２０の言葉のうち、くじで決まった候補から、グループで題材を一つに決定する。	・「ONE PIECE」と「ちはやふる」のいずれの作品でも選べるよう、**パターンＡ**、**パターンＢ**で作品が異なる組み合わせになるよう配慮する。

	5．助動詞をいくつか当てはめ、置き換えた際の「不具合さ」について考える。 ［予想される生徒の反応］ ・この言葉に置き換えると、なんかしっくりこないな。 ・この言葉は場面が伝わらないだろうな。 ・この言葉では、ストーリーの展開が変わってしまいそうだな。 ・元の通りの言葉が場面の展開上、最もふさわしいと思うよ。	・感覚的な「不具合さ」をどう説明したら他者に理解してもらえるか考え、解説のための方法を話し合うように伝える。 ・話し合いが進まないグループには補助的な問いを投げかけ、解説の方向性を定めるよう促す。 〇なんかしっくりこない →「なんか」を言葉で表すとどうだろう。 〇この場面が伝わらない →どんなふうに伝わってしまうのだろう。 〇展開がかわってしまう →かわってしまう原因は何だろう。
終末 ５分	６．本時のふりかえりを行う。 ［予想される生徒の反応］ ・別の助動詞に置き換えてみると、やはり元の通りの描写の方が適切だと考えました。次の時間には、それを説明できるようにしたいです。 ・元の表現に助動詞をつけ足して考えてみましたが、あまり違和感はありませんでした。漫画の絵もあわせて考えたいです。	**【評価の観点】** 今までの学習を生かして、積極的に助動詞の働きの違いについて漫画の描写から説明を考えようとしている。（ノート　たちどまり）

●３／４時間目　（５時間目　８年１組）

（１）本時の目標

漫画の中に使用されている言葉を用いて、言葉のもつイメージの違いを説明する。

（知識及び技能）

（２）展開

流れ	学習活動と予想される生徒の反応	めざす姿と取組を支える手立て
導入 １０分	１．前時の学習内容を思い出し、学習課題を再度確認する。 ２．本時の課題を知る。 言葉によるイメージの違いを、わかりやすく伝えるにはどうすればよいか。	・各グループで取りあげる作品と全体の学習課題を改めて示すことで、解説への見通しをもたせる。
展開 ３５分	３．グループで役割分担の確認と解説の最終確認を行う。 ［予想される生徒の反応］ ・私たちは二つの置き換えた言葉を同時に示して比べながら説明しよう。	・前時の話し合いを踏まえて、聞き手が理解するために必要な具体例を整理するように伝える。 ・解説内容の整理が早く終わった班には、言葉の不具合さについて、どの具体例を重点

	・この言葉は口頭では伝えにくいから、黒板に書いた方がわかりやすいかな。 ・この言葉が「しっくりこない」かどうか、みんなにも聞いてみたいね。	的に伝えるかなどを考えるよう助言する。
終末 5分	4．グループごとに、取りあげた漫画のコマの言葉を使いながら、言葉のもつイメージの違いについて解説を行う。	・聞き手は、解説を行うグループの問いかけに反応しながら、説明を聞くよう伝える。 ・一つのグループの解説が終わるごとに、感想や質問を近くの人と意見交換させる。
	5．本時のふりかえりを行う。 **［予想される生徒の反応］** ・他の班の発表を聞き、単語一つ置き換えるだけでイメージが大きく変わると思いました。 ・私たちの班では助動詞を置き換えても、イメージに違和感がないところを解説しました。他の班の発表では大きくイメージが変わっていたので、場面も大切だと思いました。	**【評価の観点】** 文や文章で使われている助動詞の意味・用法を判別し、わかりやすく説明している。 （解説） 今までの学習を生かして、積極的に助動詞の働きについて理解しようとしている。 （ノート　たちどまり）